



## 分科会 10 長期実務実習元年 —実りある実習を求めて—

**W-10-05**

### 「長野県わくわく実習」の取り組み ～長野県薬局実務実習モデルスケジュールを実践して～

すどう ひろし  
須藤 浩

(社) 長野県薬剤師会 薬局実務実習推進委員会 委員長

6年制薬学教育における初めての薬局実務実習が、平成22年5月17日から7月30日まで実施された。長野県でも、8大学より23名の学生を受入れ、共に学ぶことで、未来の薬剤師育成の新たな第1歩を踏み出した。受入れに先立ち、本県では、平成18年に薬局実務実習推進委員会を立ち上げ、「第1回実務実習のためのアドバンスワークショップ in 長野 (以下ADWS)」のプロダクトをもとに以下に示す「長野県における薬局実務実習の基本方針 (以下基本方針)」を策定し、受入体制整備を進めてきた。

#### 長野県における薬局実務実習の基本方針

1. 支部全体で、受入薬局と協力薬局が連携して受入れる。
2. 地域特性を活かした地域密着型の参加型実習を行う。
3. 基本となる調剤、接遇などを段階的にスキルアップする。
4. 薬局外での薬剤師活動を体験する。
5. 体験の実習により、薬剤師倫理や生涯学習の必要性を学ぶ。

さらに平成21年2月に、「平成21年度薬局実務実習受入体制整備に関するアクションプラン」を策定し、第44回長野県薬剤師会学術大会で発表した。そして、そのプランに沿って3月に開催された「第3回ADWS」のプロダクトをもとに、独自のユニットである「長野県わくわく実習 (以下わくわく実習)」を組み入れた「長野県薬局実務実習モデルスケジュール (以下モデルスケジュール)」を策定し、昨年10月滋賀で開催された第42回日本薬剤師会学術大会で発表した。モデルスケジュールおよび「わくわく実習」の概要については、以下のとおりである。

#### 長野県薬局実務実習モデルスケジュール

1. 11週を4期に分け、『1W-4W-4W-2W』を基本骨格とし、1週「導入」、2～5週「見る・知る」、6～9週「する (実際に行う)」、10～11週「深める (総合)」という期間の目標を定め、段階的にスキルアップする。
2. 早期から参加型・体験型実習を行う。
3. 多くに項目を早期から開始し、5週までに一通り終了する。さらに6週からは、見直しを行いながら、服薬指導実践およびカウンター実習を中心にコミュニケーションに重点をおいた実習を行う。
4. 幅広い薬剤師の仕事や分野を体験するために、薬局外実習を多く取り入れる。
5. 学生にぜひ体験して欲しい実習を「(0) 長野県わくわく実習」として組み入れる。

#### (0) 長野県わくわく実習

1. 待合室から見てみよう
2. 服薬実習体験
3. 患者アンケート
4. 研究課題
5. 中間および最終プレゼンテーション
6. インシデント収集・分析
7. ディスプレイおよびポップの作成
8. 地区勉強会および生涯教育講座への参加
9. 協力薬局実習
10. 卸・製薬会社・介護施設・検査センターなどの見学実習

その後の受入体制整備の取り組みについては、昨年11月の第42回北陸信越薬剤師学術大会および今年2月の第45回長野県薬剤師会学術大会で発表した。さらに実習開始直前までについては、本学術大会において、「薬局実務実習受入れ開始までの取り組み～長野県らしい実習を目指して～」と題し、ポスター発表する。

今回、第1期における長野県14支部または北信・東信・中信・南信4エリアにおいてそれぞれ実践されたモデルスケジュール、特に「わくわく実習」の成果および問題点を把握するために、実習生および受入薬局の指導薬剤師各23名を対象に、5週終了時に「中間アンケート」を、実習終了時に「最終アンケート」を実施した。その結果、実習生および指導薬剤師の双方より、多少の内容修正の必要性はあるが、概ね高い評価を得たので、その詳細について報告する。また、8月22日に長野県薬剤師会医薬品総合研究センターにおいて開催した「平成22年度第1期薬局実務実習報告会」のプロダクトより、モデルスケジュールの修正および「わくわく実習」の今後のあり方についても提案する。

そして、長野県における薬局実務実習受入れに対するこれまでの取り組みを、より理解していただくとともに、今年度第3期さらには来年度以降に向けて、より本県らしさを維持しつつ、今回のみならず今後も引き続き、薬学生から「長野県で実習して本当によかった!!」と感じていただけるようなスケジュールおよび受入体制整備の更なる充実を目指していきたいと考える。